



INAX MUSEUMS

INAXライブミュージアム

NEWS LETTER

特集 常滑小散歩

vol. 37 | 季刊 秋
2015



[特集]

常滑小散歩



常滑の魅力を感じられる空間は、やきもの散歩道だけではありません。
伊勢湾を望む海、建ち並ぶ醸造蔵、日常の中に刻まれた産業の歴史、少しコミカルな新しいやきものの道。
常滑全体をフィールドに、秋の一日、もうひとつの常滑散歩はいかがでしょうか？

INAXライブミュージアムは、東日本大震災の復興を支援しています。

01 [特集] 常滑小散歩

常滑の海に会う／「鈴溪の郷」めぐり／暮らしの中の産業物語

LIVE REPORT

06 開催報告

夏休み特別企画 どろの遊園地2015～子どもは遊びの天才だ～
ナイトミステリーツアー

07 企画展「大地の赤 ベンガラ異空間」関連企画

対談 小林達雄×赤塚次郎
縄文・弥生 真っ赤なベンガラの時代

ワークショップ
ベンガラで「赤絵」を描く～「赤い鳥」がいるミラーボックス～

企画展「マカオのアズレージョ」関連講演会
マカオの最新動向とアズレージョ

LIVE SCHEDULE

08 これからの催し

I LOVE タイル—タイルがつなぐ街かど

堀口捨己と「常滑市立陶芸研究所」
—DOKOMOMO Japan 2014年度選定記念フォーラム

09 素掘のトンネル マブ・二五穴—人間サイズの土の空間

CONTENTS

INAXライブミュージアム
NEWS LETTER

vol.37 | 季刊 秋
2015

表紙写真

来館者が帰り、静かになったライブミュージアムに子どもたちの声が響きました。ナイトミステリーツアーの参加者たちです。夜のミュージアムは初体験。ワクワクする気持ちが伝わってきました。

(2015.8.28)

撮影：加藤弘一

常滑から※

36

新しい風の予感



「第1回ハブトーク」の様子と「TSUNE ZUNE 常々」外観。コルタールの外壁が目を引きまます。

昨年夏、生まれ育った知多半島に戻り、INAXライブミュージアムで勤務を始めました。少しずつ変化する常滑を新しい視点で活かす試みに、刺激をもらっています。昨年12月、フリースペースを併設したカフェ「TSUNE ZUNE 常々」がオープン。常滑焼の盆栽鉢を梱包していた建物を改装した、かつての常滑も感じさせる居心地良いスペースです。垣根を越えて自由にアイデアを出し合う「トコナメハブトーク」などのイベントにスペースを提供しています。

第1回ハブトークでは、TSUNE ZUNEを改装した常滑生まれの建築家、水野太史さんが常滑の建築プロジェクトを発表。「やきもの散歩道」の歩きづらい「坂道」の地形を逆手に取ったランドマーク的なスペース、窯の内部を再現し、その雰囲気味わう「やきものお風呂」など、産業遺産を遺す常滑の未来の姿まで見据えた大胆で説得力あるプランが提案され、会場の熱い雰囲気圧倒されました。

活動を始めた彼らの想いは、「常滑が、さまざまな人たちが集い交流発展する『ハブ』中心地」となること。明治初期、いち早く土管製造を始めて全国の近代化を支えた常滑の地から「文化」の新しい風も吹いてほしいと、ここで自分ができることを考えています。

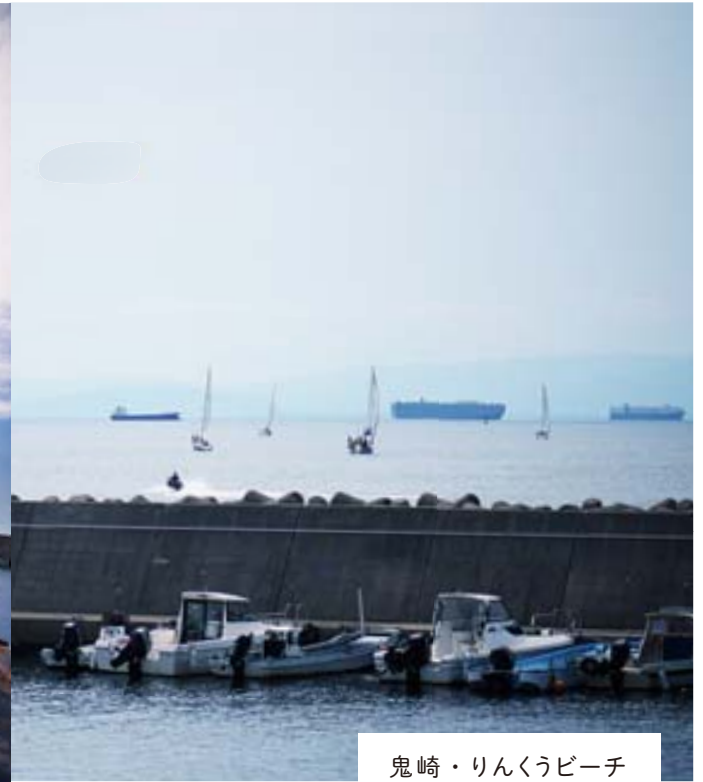
水野 慶子（企画担当）

※ INAXが生まれ育った常滑のやきものや土に関わる人、風景、できごとなどを、INAXライブミュージアムのスタッフが伝えます。



ねのひ倉
寛文5(1665)年から現在も酒造りをしている。近年まで現武豊インター付近から土管で仕込水を引いていた。

こすかや
小鈴谷



鬼崎・りんくうビーチ

「鈴溪の郷」めぐり

常滑の海に出会う



◆鈴溪資料館
盛田家の2つの土蔵(新倉・紙倉)を当時のまま内部に保存している。紙倉では400年にわたり盛田家に伝わる古文書約8500点を保存。(見学は要予約。TEL.03-3461-1921)



◆盛田本家
代々左衛門を名乗り、昭夫氏は第15代当主。門は鎌倉の別荘から移築した。

戦後すぐの1946年に設立し、やがて世界に羽ばたく(株)ソニー。創設者の一人であり、国際人として活躍した盛田昭夫氏の実家がある小鈴谷。盛田家は代々庄屋だったが、江戸初期に酒、味噌の醸造を始め、千石船を購入して江戸との交易で商売の基盤を築いた。盛田家の進取の気風はこの地で育まれたのだ。そして、内に向けては、地域の発展と人材育成に尽力した。

は350名以上、トヨタ中興の祖・石田退三氏、敷島製パン創業者の盛田善平氏など、各界で活躍した人物を多数輩出している。そうした江戸、明治の面影を色濃く残すのが、「鈴溪の郷」と呼ばれる一帯だ。170年以上前の醸造蔵で、昔もそうだったように人が働き、日本酒、味噌、たまりがつくられている。



味の館
江戸時代の醸造蔵で食事が楽しめる。隣接する味噌蔵の見学も可。(15名以上、要予約。TEL.0569-37-0733)

鬼崎フィッシャリーナをホームポートとする「鬼崎ヨットクラブ」は、東海地方で最も歴史あるクラブ。メンバーはヨット歴30年以上のベテラン揃い。ゆえに結束も固く、市民向けの体験乗船会などイベントも積極的に開催している。



鬼崎灯台



りんくうビーチの夕日

「今日は四日市のコンビナートがよく見える。ほら、長島温泉のホワイトサイクロンも、あそこに」。市の西側が伊勢湾に面する常滑。海岸線は北の大野町から南の坂井まで約20kmにおよび、休日には、日常を離れて「常滑の海」を楽しむ人たちの姿がある。

鬼崎漁港は、クロダイ、アイナメ、セイゴ、ハゼなど、一年を通して楽しめる釣り場。親子連れがやって来る。その隣には、ヨット、デインギ、ジェットスキーなどマリッジャーを楽しむ人たちの拠点、鬼崎フィッシャリーナ。ヨットの整備をしたり、クラブハウスで仲間と話



したり、それぞれの時間を楽しむ人たち。「遊びはいろいろあるけど、自然の中で遊ぶのがいい」。

明治13(1880)年、11代当主の命がワイン醸造のために建てた。親交のあった福沢諭吉から「ぶどう酒の醸造はお金がかかるからやめた方がいい」と忠告を受けるが、着手。成功はしなかった。



常滑小散歩マップ

大野町の町並み
おおのみなと「大野湊」と呼ばれ、海運によって富が蓄積された港町。繁栄した時代の面影を、多くの社寺や家並みに見ることができる。

未来絵の道
常滑市役所北側道路沿いのモザイクタイルの立体オブジェ16体。市民が「常滑の大切なもの」を表現した。思わず見入ってしまう。

相持院 (04P)
(千代ヶ丘4-66)

知多本宮山
標高86.4mからの眺め。山頂には樽水本宮神社があり、常滑市街、セントレア、コンテナ船が浮かぶ伊勢湾、遠く鈴鹿山脈まで眺めることができる。伊勢神宮まで直線距離で48.63kmだとか。

登窯
日本で現存する登窯としては最大級。明治20年頃に築かれ、昭和49年まで使用された。国の重要有形民俗文化財、近代化産業遺産。これは見ておこう！（やきもの散歩道Aコース南端）

澤田酒造
嘉永元年(1848)創業。年に一度、酒蔵開放もある。(古場町4-10)

巨大招き猫 (とこにゃん)
常滑は日本一の「招き猫」生産地。名鉄「常滑駅」から東の陶磁器会館に向かう道路沿い、「招き猫通り」には39体の招き猫がいる。幅6.3m、高さ3.2mの「とこにゃん」は、典型的な常滑系招き猫の顔。

一六市
40年以上前から一と六のつく日に開かれている朝市。旬のものを扱う八百屋や魚屋、ほかにも花、乾物、豆、味噌、お菓子、衣料品など50軒ほどの店が出る。「おしゃべりしにくるんだわ」と常連客も多い。(7時頃から保示4丁目交差点脇)

鈴溪の郷 (03P)

鬼崎 (02P)

りんくうビーチ (02P)

瀬田地区 (04P)

常滑IC

半田中央IC

半田中央JCT

半田IC

武豊IC

美浜IC

中部国際空港IC

中部国際空港

りんくうIC

りんくう常滑駅

常滑駅

名鉄常滑線

R155

セントレアライン

R247

R247

知多半田線



スクラッチタイルの塀

瀬木

暮らしの中の産業物語



土管でできた土留め

規格外れで商品にならなかったものを利用している。カーブがあり形が不揃いの手前の土管は手作業の輪積みでつくられた明治期のもの、向こう側のストンとした土管は押し出し成形機械でつくられた大正以降のもの。

やきもの散歩道からちよっと外れると、観光用でない常滑の顔が見えてくる。暮らしの中に刻まれた産業の歴史物語だ。

阿弥陀堂へ向かう小道の塀は「スクラッチタイル」。フランク・ロイド・ライトが設計した帝国ホテル(1922年)の壁面に使われた煉瓦だ。表面につけられた引っ掻き傷のような縦の溝は、横目地を目立たせるためのデザイン。ライトから送られてきた実物見本をもとに試行錯誤を繰り返して完成し、量産体制のない時代、ほぼ手づくりで250万個を納品したのが常滑だ。

また市内各所には、石やブロンズでなく、陶製の大きな像「彫」が見られる。映画「21世紀少年*1」のロケ地になった相持院にも2体3対。大物を焼くこ



*1..2008年〜2009年にかけて3部作で公開された映画。堤幸彦監督、唐沢寿明主演、東宝配給。
*2..直接火が当たらないように、また温度差が生じないように遮る道具。



相持院

山門の彫刻も素晴らしい。
狐：片岡静観作 昭和35年ごろ
聖観音立像：柴山清風作 昭和33年

